

春 迎



登米市長
布施孝尚

市民と行政の協働による 身の丈に合った行政運営

明けましておめでとうございます。市民皆さまには輝かしい新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

登米市は昨年4月に誕生して初めての新春を迎えました。昨年は新しい自治体としてのスタートの年で、市民皆さまには何かとご不便やご迷惑をお掛けしましたことに対し、深くお詫び申し上げます。

市長となつて以来今日まで、市民皆さまが新市に寄せる期待の大きさの程は、懇談会などあらゆる機会を通じて強く感じさせられているところでもあります。ご期待に応えるため、わたしはもとより職員一同、より一層気を引き締め、一丸となつて取り組んでまいらなければならぬと、決意を新たにしているところでございます。

昨今の地方自治を取り巻く情勢は誠に厳しく、三位一体改革に伴う地方への権限移譲が進む中、地方交付税の削減が合併前に策定した財政計画より大幅なものとなり、あらためて見直しが迫られているところであります。

組織機構の見直しも急がれており、合併効果の大きな柱である行政のスリム化と専門性確保による市民サービスの向上を目指した効率的な行政運営も、大きな課題と認識しております。

以上の現状を踏まえて、山積みする問題解決には、持続可能な長期的展望に立った計画の策定が緊急の課題となっております。現在

は合併前に策定した新市建設計画を基にして、登米市が抱える課題と現状を再確認しながら、本年2月をめどに総合計画の策定作業に取り組んでいるところであります。また、行財政改革実施計画も並行して策定中であり、登米市の指針となる大きな2つの計画が出そろった本年は、実質的な登米市元年といえる大切な年と考えております。

職員一人ひとりが、新しい組織体の一員であるという自覚を持ち、主体的に課題解決できる体制にすること、そして行財政改革の確実な実行が急務と考えております。

また、これからの地方自治体の在り方は、行政情報を分かりやすく市民に提供し、説明責任を果たしながら、市民と行政の相互理解と協働による身の丈に合った行政運営が重要であると強く感じております。国が進める三位一体改革を注視しながら、時代と地域に即した行政施策が展開できるよう国、県に積極的に提言していく所存であります。

本年も登米市のキャッチフレーズ『夢・大地みんなが愛する水の里』づくりに全力をもって取り組んでまいれる所存でありますので、市民皆さまの理解とご協力をお願い申し上げます。

今年が登米市、そして市民皆さまにとって昨年以上に充実した良い年になりますようお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。

輝かしい未来に向かって 安全・安心なかじ取りを

明けましておめでとうございます。輝かしい2006年の新春を迎え、市議会議員一同心からお祝いを申し上げます。

昨年は、4月1日に9町が大同合併して人口約9万2千人を数える県内第3位の大きなまち「登米市」として生まれ変わり、市民皆さまの大きな夢を乗せてスタートした記念すべき年でありました。今、2年目を迎えるに当たり、今年も皆さまにとつて明るく幸多い年でありますように願っております。

新市が発足して早くも9カ月が経過したわけですが、振り返って見ますと、合併によって巨大化した組織にありがちなさまざまな問題点や事務的なミスが数多く発生しました。また、例年より4カ月遅れの予算決定という両面から、市民の皆さまに多大なご迷惑をお掛けしてしまいました。議会にも皆さまからの声が多く寄せられており、機会あるごとに執行部に対し、さまざまな提言や申し入れをしてきたところでもあります。しかし、議会としても初年度ということ、諸行事や内部のルール作りに忙殺されて、議会だより以外には十分な説明責任を果たす機会を持つことができなかったことを反省しております。

合併2年目を迎え、市では新年度予算編成と並行して、これから10年間のまちづくり計画の根幹となる総合計画の策定作業が進められており、2月定例議会で審議決定される予定になっております。この計画は、合併協

会での決定事項がその基礎資料となるはずであります。

しかし、先月の新聞報道ですでに皆さまもご存知のとおり、国の三位一体改革の波は、本市の財政事情にも深刻な影響をもたらしています。地方交付税の減額などにより、新年度予算編成に当たって、約20億円の財源不足が生じる恐れがあると報じられました。一方では市の人口も予想以上の早さで減少が進行しつつあり、登米市は2年目にして早くも財政運営そのものの真価が大きく問われることとなりそうです。これまで以上に創意工夫が必要になるとともに、市民皆さまのご理解を頂きながら市政を進めていく姿勢が求められるものと思っております。

わたしたち議員は、住民全体の代表者であり、奉仕者であるという本分に立ち、このような厳しい時代であればこそ、なお一層気を引き締めなければなりません。登米市の輝かしい未来に向かって安全安心な航海ができるよう、かじを取っていかねければならない職責があると考えております。

なお、昨年12月定例会から、市内はもとより全国どこからでも、インターネットを通じて登米市議会の生中継や日中、仕事などで傍聴・視聴できない方のために、録画放送で視聴できるようにいたしました。皆さまのより一層のご支援とご叱声をお願い申し上げます、新年のごあいさつといたします。



登米市議会議長
千葉清昭